

2011.9.7「党内融和だけで国難が見えていない野田総理」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

本日は9月7日であります。野田「ドジョウ」内閣が発足して一週間が経ちました。しかしながら、未だに国会は開かれていないどころか、日程も決まっています。ご祝儀相場で支持率は上がっています。野田内閣が高支持を得ている理由の大半は「菅さんのようなとんでもない人より、野田さんの方が人柄が良さそうだから」という素朴な評価に起因していると思います。私も野田氏は前任の2人の総理のような、とんでもないキャラクターではないと思っていますが、問題なのは、民主党そのものの問題が何一つ改善されていないことです。今回はそれに加えて、自民党政権の時に彼らが散々けなした派閥均衡内閣を再現しており、党内融和を優先した人事が散見されます。この状態で国会が始まった場合、各大臣、それぞれの職務が務まるのかどうか本当に心配です。

そもそも野田総理自身が菅内閣において財務大臣を務めていました。菅内閣の大きな過ちは、つまるところ二つで、一つ目がデフレを加速させたことで、二つ目が被災地の復興のため、経済の立て直しを一番に取り組みねばならないのに、予算を付けずに放置したことです。この二つが菅内閣にとって致命傷になったわけでありましたが、それを一緒に行っていたのがまさに野田氏であり、共同正犯でありながら、本人は全く認識していないのです。

そして、財務大臣に安住氏が任命されました。私はこの方の詳しいことを存

じ上げませんが、少なくとも財政運営において、具体的な政策理念を持っているようには見えません。現に彼は、復興財源・復興債の償還財源は我々の世代で賄うべきであり、その為に増税をしなければならないと仰っていますが、その考え方自体が論理破綻しているのです。なぜかと申しますと、我々は復興財源について何度も、60年物の長期の建設国債で賄えば良いと主張してきました。その理由は、次の世代の為、復興の為に大きなインフラ整備を行っていく必要があるからです。整備には多額の予算が必要で、施工も我々の世代で行います。しかし、それを利用するのは我々の世代だけではなく、次の世代、そしてその次の世代というように、非常に長く利用することができます。しかも政権自らが「千年に一度の大震災である」と公言しているわけですから、今は平時ではないのです。

例えば、平時の予算の付け方は「道路が陥没したから、その整備の為に今年の予算の中から予備費で整備していきましょう」という程度で良いのです。しかしながら今、目の前にある震災の被害というのはその程度の予算では済まされないのです。洪水など他の被災地域や今後起こるであろう東海地震などの対策を踏まえて考えますと、約100兆円規模の予算が必要なのは明らかです。それを今の緊縮させた財源の中で行うということは、有り得ませんし、インフラ整備は建設国債で行うということは各国においても常道であります。ただ建設国債を発行するにしても、インフレの時は避けなければなりません。しかし現

在は民間の資金が過熱している状況ではなく、むしろデフレの状態です。このような経済状況において復興財源を税金で賄うことになると民間から益々お金を吸い上げてしまうことになります。そうすると余計にデフレを加速させるだけであり、また小規模な予算で公共事業投資を行っても経済を悪くするだけです。このようなことは、経済学を少しでも齧ったことのある方ならすぐ理解できると思いますし、経済学を勉強していない方でも世間の景気や会社の景気といった一般の方の暮らし向きをしっかりと見ていれば分かることです。ところが、このような当たり前の事を野田氏もその後を引き継いだ安住財務大臣も理解できないのです。

また、一川防衛大臣に至っては「私は安全保障に関して素人であるからこそ、まさにシビリアンコントロールなのだ」と仰っています。これは全くの出鱈目です。要するに文民統制というのは、軍人（制服組）が政策を決定するのではなく、国民に選ばれた文人である政治家が最終判断することで、なにも素人が決定を下すことがシビリアンコントロールではないのです。そのような基本的なことを理解されていない方が防衛大臣であることに呆れてしまいます。

更に外務大臣には外交政策の経験が全くない玄葉氏を起用しています。このような方に日本の外交を任せていいものでしょうか。

そして、国家公安委員長兼消費者省担当である山岡氏は国対委員長の時に、いわゆるマルチ商法に絡む事件において自身の部下が責任を取って辞めてい

ます。そしてマルチの議員連盟の会長も山岡氏だったと思いますが、その問題の整理は出来ているのでしょうか。

このように一人一人閣僚の顔ぶれを確認し、適材適所の観点から見てきますと全く出鱈目な人事であるということが明らかになってきます。それが顕著に表れているのが幹事長を務めていらっしゃる輿石氏であります。輿石氏を幹事長に就任させたのは党内融和で小沢氏や参議院側にも配慮できるということであり、これはこれで党内の論理としては良いのでしょうか。しかしながら、幹事長の職責は民主党全体の政策を含め人事全般を幹事長が目を光らせてチェックすることです。恐らく輿石氏の意見が尊重されたため先程から申し上げているような出鱈目な方々が大臣に選ばれたのでしょうか、派閥均衡という意味では気が利いているとしても、政策的、人格的、その方が本当に大臣にふさわしいかどうかの検証は全くなされていません。つまり、それ程党内の事を把握しないままに野田氏は内閣を組閣したのです。

そして一番の問題は、13日から与党側が国会を開き、13日から16日の4日間で代表質問を終わらせたいと申し出ているのですが、とんでもない話であります。せめて衆参で予算委員会を2日間程度開いていただかないと、野田内閣の目指すべき方向がわかりません。ですから我々は強く会期の延長と予算委員会開催の要求を行っています。また、民主党の国対委員長の平野氏によれば「我々は未熟で、答弁が出来ないから、予算委員会は開催できない」と仰って

います。この発言に野党側は猛反発したのですが、反発して至極当然です。まともに答弁も出来ない大臣を任命していると言いながら、その方々はマスコミなどのインタビューには応対しているわけです。また、そのような人間を大臣に任命しておきながら、いざ国会において追及される時には「まだ準備が出来ていないので、しばらく予算委員会を待って下さい」などと言い、逃げるとは、一体何を考えているのだと思ってしまいます。まさに一事が万事という状況であり、ドジョウ内閣というよりは泥縄内閣といった方がしっくりきますし、このような政権では先行きが思いやられます。そして、多くの国民にこの内閣の実態を一日も早くお知らせし、幻想を反映した高支持率をしっかりと冷静に分析して頂きたいと思います。

いずれに致しましても、来週から国会が開かれると思いますが、私達もしっかりと野田内閣の追及をしていきたいと思います。ありがとうございました。